

# 公園種別と形状による利用者属性

浦中 翔<sup>1</sup>・田中 一成<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 大阪工業大学大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 (〒535-0002 大阪市旭区五丁目十六番一番, E-mail:m1m19103@st.oit.ac.jp)

<sup>2</sup>正会員 大阪工業大学 工学部 (〒535-0002 大阪市旭区五丁目十六番一番, E-mail:kazunari.tanaka@oit.ac.jp)

近年, 生活の変化や高齢化にともない都市公園へのニーズも変化し多様化してきている中, 平成5年の都市公園制度改正にともない, 住区基幹公園の一つである児童公園は, 利用者が児童に特定される名称および定義などが見直され, 街区公園とされた. 身近な住区基幹公園は, それぞれ誘致距離と面積によって役割が定義されているが, これらの種類によって利用者の利用方法が異なるかという点ではない. 既成市街地では, 計画通りの配置と面積ではなくこのため利用者への制約も多い. 本研究では利用者の属性にあった公園の配置計画を考える.

キーワード: 街区公園, 重回帰分析, 地理情報システム

## 1. 研究方法

対象地は旭区の街区公園 (図-1) とする. 研究方法は, まず利用状況について調査を行う. 利用状況と関係している遊具と施設などを調べるため, 利用率と誘致圏内の要因・空間要素について重回帰分析を行なう. 利用状況と関係している施設などを調べるため, 公園内は現地調査から要素を抽出し, 公園外はGISを用いて要因を抽出した. 抽出された要因と考察から利用者の特性を分析・考察する.

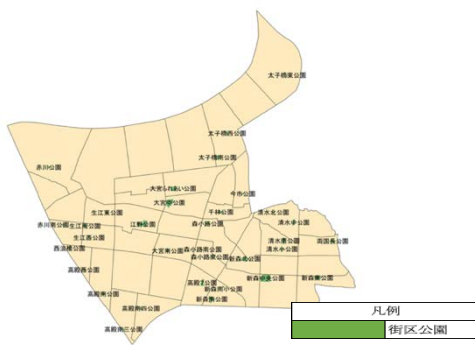


図-1 旭区の街区公園の配置

## 2. 小学生の時間割について

小学校の年間の標準総授業時数は, 学校教育法施行規則により, 児童の発達の段階等を踏まえ, 決められている (新小学校学習指導要領に基づく, 2020年4月1日より施行). 各学年の年間の標準総授業時数は, 1年生は850単位時間, 2年生は910単位時間, 3年生は980

単位時間, 4~6年生は1015単位時間である. また, 大阪市の小学校は, 令和2年度から新学習指導要領が全面实施されることに伴い, 第3~6学年の標準授業時数が増加すると大阪市が決められている. このことから, 街区公園の利用者 (児童) と利用時間に関係させて調査を行う. (図-2) に対象地区における学区と人口データを示す.

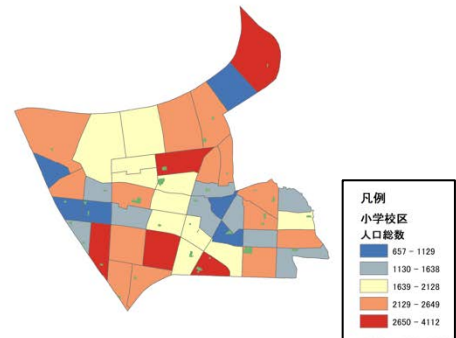


図-2 対象地区における学区と人口データ

## 3. 利用状況の調査

利用調査では, 利用者の年齢に違いが見られる小学1~2年生の利用が多く考えられる15:30~15:40, 15:50~16:00以下「夕刻前半」と, 小学3~6年生の利用が増え始める16:10~16:20, 16:30~16:40以下「夕刻後半」の二回行なった. これらをまとめた結果を (表-1) に示す. また, 利用調査の結果より, 式 (1) (2) 用いて利用時の1人あたり公園面積と利用率を算出した.

